



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025 年 10 月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで 63 年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026 年 6 月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

<お問い合わせ先> NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jp HP : <https://www.houkon.jp/>





2025 年 10 月度ギャラクシー賞月間賞

NNNドキュメント'25「烙印～人殺しと呼ばれた 38 年間～」

10 月 12 日放送 福井放送

38 年の末に再審で無罪が確定した前川彰司さん。当時殺人罪の決め手となった知人の嘘の証言は警察が誘導したものであり、警察・検察は 20 年もその証拠を隠し続けていた。無罪となっても人殺しの烙印として残る冤罪の恐ろしさ、検察の反省はしても謝罪はしないという体質、再審制度の課題。理不尽な社会の現状を明解に伝えていた。

テレメンタリー2025「落日のメガソーラー 問われる自然との共生」

10 月 18 日放送 北海道テレビ放送

メガソーラーがかくも乱暴に建設されているのかと驚いた。釧路湿原の希少生物の生息調査が不十分でも、北海道の許可を得ていない違法状態でも、工事が着工できてしまうという現実。しかも開発を止めるには、法改正が必要だという。エネルギー問題、自然との共生、課題解決のために大局的な視点の必要性が浮き彫りになった。

NHKスペシャル「加害の“扉”が開くとき 子どもを守るには」

10 月 26 日放送 日本放送協会

中高生が撮影した同級生の盗撮動画や AI で裸に加工した動画がネットに溢れている。SNS の世界がこんなにも恐ろしい状況になっているのか。日本では子どもたちが無防備にその世界に晒されていることを知り、心底恐怖を感じた。加害者への取材で見えてきたのは、加害のきっかけが子ども時代にあること。まずは諸外国並みの規制の必要性を伝えた。

夜ドラ「いつか、無重力の宙で」

9 月 8 日～10 月 30 日放送 日本放送協会

30 代の女性 4 人が高校時代の夢を再燃させて小型人工衛星を開発し、宇宙からの画像と音声を地球に届ける大プロジェクトを成就させる物語。固い友情をベースに、がんによる友人の死、各々の事情と葛藤、チームワークやコミュニケーションの力をリアルな会話で繋げ、感動を広げた。緻密な脚本と演出の妙を存分に楽しめる作品だった。

★詳細は月刊誌「GALAC」2026 年 1 月号に掲載します